

第3回学研北生駒駅周辺まちづくり会議次第

日 時 平成26年7月22日（火）

19時～

場 所 北コミュニティセンター

1 開 会

2 まちづくり構想案の骨子について

3 閉会

第 3 回学研北生駒駅周辺まちづくり会議

平成 26 年 7 月 22 日（火）

生駒市役所 都市計画課

□ 会議の主旨

- ✓ 学研北生駒駅周辺は、北部地域のにぎわい・交流拠点として、駅を中心に魅力あるまちづくりとコミュニティ強化を図る地区としている。その実現のためまちづくり会議を通して構想を策定する。今回はグループ討議を行い、今後どんな暮らしをしたいか（提供したいか）といった視点から意見を出し合った。
- ✓ 今回は構想の素案作成に向け、まず前回会議の意見を受けてまとめた「まちづくりの方針（案）」を事務局から提示する。
続いて「まちの将来像・目標」について各テーブルで意見を出し合い、後に例示するようなキャッチフレーズ案を出し合う。

□ 本日の予定

1. 開会
 - ✓ 副市長挨拶
 - ✓ 本日の進め方、主旨説明
 - ✓ 座長挨拶
2. まちづくり構想案の骨子について
 - ✓ 前回会議内容の確認
 - ✓ 「まちの将来像（キャッチフレーズ）」について意見出し…別紙例参照
 - ・ 自治会関係者等
…この地域で実現したい暮らし
 - ・ 事業者等
…この地域に提供したいサービス、展開したいまちづくりのコンセプト等
 - ✓ 各班発表
3. 閉会

学研北生駒駅周辺まちづくり会議 ニュース 第2号

【発行主体】

生駒市都市計画課

TEL 0743-74-1111(内線 565)

5月21日(水)の19時より、北コミュニティセンターにて第2回学研北生駒駅周辺まちづくり会議を開催しました。

第2回では、自治会代表、個人地権者、法人地権者、事業者がグループに分かれ、「今後、この場所でどんな暮らしをしたいか(サービスを提供したいか)」といった視点から意見を出し合い、北生駒駅周辺のまちづくりのあり方について話し合いました。



〈会議の概要〉

1. 開会
2. 各班に分かれてのグループ討議
 - ・自治会関係者+個人地権者グループ(2グループ)
 - ・事業者+法人地権者グループ(1グループ)
3. 各班の発表
4. 閉会



●松村先生(愛媛大学大学院教授※)のコメント(要旨)

今回も座長として松村先生(愛媛大学大学院教授)におこしいただき、始めと終わりのコメントをいただきました。ポイントは以下のとおりです。

- ➡ なるべく1人称(“私”)の立場で物事を考えてもらいたい。
- ➡ 愛媛に行き暮らしが変わった。改めて思うのは“ちょっとした工夫や仕掛けで暮らしは変わる”ということ。
- ➡ そのための機能を少し空間づくりのなかに反映させるだけで、豊かな暮らしにぐっと近づくと感じる。
- ➡ 本日、いただいた意見を“大切な言葉”としてまちづくり構想の中に盛り込んでいきたい。



※松村先生は4月1日付で大阪大学から愛媛大学へ異動されました。

●グループワーク

本日は、3グループに分かれて意見交換を行いました。

◆自治会関係者+個人地権者グループ

- ・この地域でどんな暮らし方、過ごし方がしたいですか？
- ・そのためにどんなまちが良いですか？

◆事業者+法人地権者グループ

- ・この地域のどのような人々にどのような暮らしを提供したいですか？
- ・そのためにどのように事業を展開しどのような地域貢献ができますか？

各グループワークの概要は次ページ以降のとおりです。

まちの特徴

まちへの思い

まちづくりのアイデア

●高齢者も元気な街

●周囲に自然が残っている
●自然が多く空気がきれい
●緑が多い
●蛸が舞う町、帰宅（帰路）が楽しめる

・一人暮らしの高齢者が住みやすいまち
・老人の住みやすい町

A1

・親子でのんびりと過ごせる町
・商業施設周りで年配の方、子どもたちが集える

A2

A3

・休日にウォーキングしたい
・緑地の多い空間

A4

A5

◎高山地区からのアクセス改善

A13

・マイカー
・バス
・その他？ コミバス

◎買い物の交通の便を良くする

A14

◎公園的な環境

・公園的な設備が必要
・商業施設周辺に緑、花の豊かな広場がほしい（安全性にも配慮）

A15

◎緑の多い歩ける環境

・北生駒周辺の地域資源を活用した歩道
・案内サインも必要
・事業者に緑地を多くするように要望していく

A16

●高山、学研都市の玄関口

●駅前が味気ない（通過点）

・北生駒駅前で食事をしたりコーヒーを飲んだり本を読んだりゆっくりしたい

A6

・駅（電車）を利用した際に買い物をしたい
・各商業施設がバラバラでなくつながっていてほしい
・駐車場が利用しやすいと駅利用者が勝手に利用するのは

A7

A8

A9

・目的は町づくり
・商業施設以外の計画は？

A10

◎人が集まるいいいの場

・駅の下または近くに喫茶店、食堂、書店をそろえる
・病院や薬局も必要

A17

◎安全で利用しやすい店舗

・駅からの徒歩アクセスが安全にできる
・道路を安全にわたれる
・各商業施設で買い物を高齢者のために配達（連携）
・店の間を行き来できる

A18

◎事業者の地域貢献

・商業施設の防災に関する取り組み、災害時の役割

A19

●車が増えて工事が長引き市道を抜け道に使われて困っている

・北地区の地域格差のない開発計画
・渋滞がひどくならないように

A11

◎道路アクセス計画と開発の同時進行

・市街化区域に入れて税金が上がっても開発は進まない
・域内の道路の迅速な整備
・生活道路の安全対策
・中学校に行くための歩道橋（安全にわたれるよう）

A20

●畑を耕せる
●ブラスバンド

・演奏の場、コンサートなど
・各店舗の努力だけではなく他にない魅力で人を集める
・・・・どう活かす？

A12

交通問題への対応

◎交通計画無しの開発計画ではダメ



B1

◎商業施設の立地云々の前に元々の交通渋滞を解消すべき

(※むしろ商業施設の駐車場は空いている)

◎通過交通の排除

- ・イオンから来る車は県道へ誘導すべき
- ・既存集落に迷惑をかけないようにする

B2

◎駅前広場の縮小

- ・現計画のような広い広場は必要ない
- ・高山第2工区の開発も期待できないのだから縮小すべき

B3

駅周辺だけでなくもっと広く捉える

◎駅周辺にこだわる必要はない

- ・それほど駅を重要視しなくても良い。(住宅地内の最寄駅という位置づけである)
- ・(高山町) 芝全体を区画整理事業するといったくらいの発想が必要ではないか?

B4

◎ブランド力を活かす

- ・周辺エリアは教育環境が良いので住宅地としてのブランド力が高い。それを活かすような取り組みが必要ではないか。

B5

大きな公園を！

◎公園（的な空間）の併設

- ・買い物の途中に子どもが遊べる公園があれば便利
- ※公園そのものは近くにあるので公園的な空間でも良い

B6

地元の人が住み替えできる

◎若者だけでなく…

- ・若者だけでなく今住んでいる人も大事。
- ・高齢になっても駅前に住み替えできるといったまちが良い。

B7

沿道のまちなみ

◎看板（サイン）の統一

- ・看板が美しくないのはダメ。地域全体で一定のルールがあれば良い。
- ・国道24号沿道のようにはなってほしくない。

B15

◎介護施設等の充実

- ・高齢になると必要不可欠な介護施設等の機能が充実していることも重要である

B8

◎空き家の活用

- ・住宅地内に増えてきている空き家の有効活用もあわせて検討することが重要である。

B9

その他

◎店舗の駐車場にEVスタンドを設置

B10

◎仕事帰りに一杯立ち寄れる店が欲しい

B11

◎北部地域の災害拠点になれば良い

B12

◎駐輪場を大きくして欲しい

B13

◎店同士を回遊できるような配置にして欲しい

B14



くらしを支える便利なまちにしたい

◎暮らしを支える店づくり

- ・ワンストップショッピングによる
買い物のしやすさ
- ・長時間営業による利便性の提供
- ・生活必需品の提供
- ・リーズナブルなプライスで提供
- ・肩肘張らずに気軽に入れるお店に

C1

C2

だれもが住み続けられるまちにしたい

◎住みたい！と思える街に

- ・永住志向に応えるまちに
- ・コミュニティがあり、活気のあるまちに
- ・子育て世代が住みやすいまちにして、住みつづけられるように

C3

安心・安全に暮らせるまちにしたい

◎安心安全のまちづくり

- ・老後も安心して暮らせるまちに
- ・アップダウンの少ないバリアフリーを
意識した店づくり
- ・夜も安心して暮らせる明るいまちに
- ・防犯意識が高い、治安がよいまちに

C4

まちのブランド力・魅力を向上させたい

◎まちのブランド力向上

- ・北生駒のブランド力を向上して、知名度をアップする
- ・北生駒に企業を誘致して新たなサービスを提供する
- ・ブランド力が向上すれば、人が集まってくる

C6



◎まちの魅力づくり

- ・駅前のにぎわいづくりが大切
- ・花のあるまちがよい
- ・美しい街並みをつくることで、まちの価値があがる

C7

女性にうけるまち・女性が住みやすい
まちにしたい

◎女性の目線でのまちづくり

- ・一般的に女性はまちにいる時間が長い。女性の目線で
まちを考えるのも重要
- ・教育環境が充実しているまちは、まちを選ぶ際のひと
つの目安
- ・子育て＋健康づくりがしやすいまちに

C8

交通対策等

- ・地域の交通弱者の足を確保することが大切
- ・地域バランスを考えたバス路線の検討が必要
- ・公共交通機関の運営のためには、行政の協力は不可欠
- ・店舗等の駐車場規模や駐車場動線に配慮する

C5

環境配慮等

- ・バス回送の本数や走行距離を減らして、
環境負荷を低減させる
- ・屋上緑化等を取り入れた施設づくり
- ・周辺に対する騒音に配慮した施設づくり
- ・地域の特徴を活かした低炭素なまちづくりを
目指したい

C9

まちづくり会議で出た意見 ※重複する内容は省略しているものもあり	まちづくりの方針(案)
1. 各商業施設がバラバラでなくつながっていてほしい(A8) / 店同士を回遊できるような配置にしてほしい(B14) 仕事帰りに一杯立ち寄れる店が欲しい(B11) / 駅利用時に買い物をして帰りたい(A7) くらしを支える店づくり(ワンストップショッピング、長時間営業、気軽に入れるお店など)(C1・C2) まちの魅力・駅前のにぎわいづくり(C7) / 駅の下・近くに喫茶店・食堂・書店などを揃える(A17) 2. 一人暮らしの高齢者が住みやすい町(A1)/高齢者の住みやすい町(A1・B7)/アクセス改善(A13・A14) 介護施設等の充実(B8) / 病院や薬局も必要(A17) / 各商業施設で連携し買物を高齢者のため配達(A18) 暮らしを支える店づくり(買い物のしやすさ、長時間営業による利便性の提供、生活必需品の提供など)(C2) 3. 商業施設周りで年配の方、子どもたちが集える(A3) / 公園的な空間(買物中に子どもたちが遊べるなど)(B6) 駅前で食事をしたりコーヒーを飲んだり本を読んだりゆっくりしたい(人が集まる憩いの場)(A6・A17) 4. 老人の住みやすい町(A1) / 北地区の地域格差のない開発計画(A11) / 高齢になっても駅前に住替えできるなど(B7) 空き家の活用(住宅地内に増えてきている空き家の有効活用もあわせて検討することが重要)(B9) 高山・学研都市の玄関口、畑が耕せる、豊かな自然環境、空気がきれい、虫が舞う(A「まちの特徴」) 全体 プランド力向上(良質な住宅地、教育環境など)(B5・C6) 安心・安全のまちづくり(老後の安心、バリアフリー、防犯など)(C4) 誰もが住みつづけられるまち(永住志向に応える、コミュニティがあり活気がある、子育て世代が住みやすいまち)(C3) 女性にうけるまち、女性が住みやすいまち(一般に女性はまちにいる時間が長い、教育環境、子育てと健康づくり)(C8) 各店舗の努力だけではなく他にない魅力で人を集めるまち(演奏の場があるなど)(A12) / 駅周辺にこだわる必要はない (住宅地内の最寄駅という位置づけである、(高山町)芝全体を区画整理事業するくらいの発想が必要)(B4)	◎拠点性を高める取組みを進めます 地域住民にとって便利で快適な生活を営む場となるような商業・業務機能の集積や、快適な生活を実現するための生活機能の充実、ならびに憩いの空間創出などにより、北部地域の拠点性を高める取組みを進めます。 1. 賑わい機能の導入 ・商業・業務機能の導入 2. 生活機能の充実 ・居住機能や生活サポート機能(医療・福祉や子育て、健康増進など)の充実 3. 憩いの空間づくり ・公共的な利用が可能な空間整備の誘導 4. 周辺地域と連携した持続可能なまち ・周辺地域との連携や住み替えサイクルの構築 ・周辺の地域資源を活かしたまち
1. 地域の交通弱者の足を確保する(C5) / 一人暮らしの高齢者が住みやすいまち、老人の住みやすい町(A1・B7) アクセス改善(バス、その他)(A13) / 地域バランスを考えたバス路線の検討が必要(C5) 公共交通機関の運営のためには、行政の協力は不可欠(C5) 2. 交通対策(渋滞がひどくならないようにする、域内の道路の迅速な整備、生活道路の安全対策など)(A11・A20・B1・B2・C5) アクセス改善(マイカー)(A13) / 買い物の交通の便を良くする(A14) / 通過交通の排除(B2) 店舗等の駐車場規模や駐車場動線に配慮する(C5) / 駅前広場の縮小(B3) 3. 一人暮らしの高齢者が住みやすいまち、老人の住みやすい町(A1) / 買物の交通の便を良くする(A14) 安全で利用しやすい店舗(駅からの徒歩アクセスが安全にできる、店の間を行き来できる、道路を安全に渡れる)(A18) 道路アクセス計画と開発の同時進行(生活道路の安全対策)(A20) / 高山地区からのアクセス改善(A13)	◎適切な交通ネットワークの整備を進めます 学研北生駒駅を起点とした周辺地区との公共交通ネットワークを確保します。あわせて渋滞が発生している周辺道路の交通問題への対応や高山第2工区の動向を考慮した都市計画道路・駅前広場の見直しなどにより、適切な交通ネットワークの整備を進めます。 1. 地域の“足”となる公共交通の確保 ・学研北生駒駅を起点とした公共交通ネットワークの確保 2. 道路ネットワークにも配慮した適切な地区内交通処理の検討 高山第2工区の動向を考慮した都市計画道路等の見直し ・周辺地域の渋滞解消に資する都市計画道路の整備推進 ・開発により発生する交通量への適切な対応、適切な動線計画 3. 安全で利便性の高い歩行者動線の確保 ・鉄道やバス利用者に配慮した歩道等の整備

まちづくり会議で出た意見 ※重複する内容は省略しているものもあり	まちづくりの方針(案)
1. 緑地の多い空間づくり(商業施設周辺での緑の整備など)(A5) / 親子でのんびりと過ごせる町(A2) / 公園的な設備、商業施設周辺に緑・花の豊かな広場(A15) / 花のあるまちがよい(C7) / 緑の多い歩ける環境、案内サインなど(A16) 買い物の途中に子どもたちが遊べる空間など(公園的な空間)(A3・B6) 看板(サイン)の統一(美しく、地域全体で一定のルールがあれば良い、国道24号線のようにはなって欲しくない)(B15) まちの魅力づくり(美しい街並みをつくることでまちの価値があがる)(C7) 2. ブランドづくり・ブランド力の向上(良質な住宅地、良好な教育環境など)(B5・C6) 休日にウォーキングがしたい(A4) / 緑地の多い空間(A5) / 北生駒周辺の地域資源を活用した歩道(A16) 豊かな自然環境、空気がきれい、虫が舞うまち(A「まちの特徴」)	◎地域拠点にふさわしい景観づくりを進めます まちなみ景観に関するルールづくり等を通して、北部地域の地域拠点にふさわしいシンボル(顔)景観の形成を進めます。 1. 地域の玄関口にふさわしい統一感のあるまちなみの形成 ・駅側に正面性を持たせたまちなみデザインの誘導 ・景観ルール、ガイドラインの作成(建物の意匠やサイン等) 2. 周辺の景観との調和 ・自然環境(富雄川や背景の山並み)への配慮
1. バス回送の本数や走行距離を減らし、環境負荷を低減(C9) / 地域バランスを考えたバス路線の検討が必要(C5) 2. 店舗駐車場にEVスタンドの設置(B10) 3. 屋上緑化等を取り入れた施設づくり(C9) / 緑地の多い空間(A5) / 商業施設周辺に緑、花の豊かな広場が欲しい(A15) 緑の多い歩ける環境、事業者が緑地を多くするように要望していく(A16) 全体 地域の特徴を活かした低炭素なまちづくりを目指したい(C9) ブランドづくり・ブランド力の向上(良質な住宅地、良好な教育環境など)(B5・C6) 他(環境) 周辺に対する騒音に配慮した施設づくり(C9)	◎地域全体の低炭素化に向けた取組みを進めます 自然エネルギーの活用や低炭素建築物(環境配慮建築物)の採用、公共交通の積極的な活用など、環境負荷を低減する技術の導入を積極的に行い、地域全体で低炭素化に向けた取組みを進めます。 1. エネルギー利用の効率化 ・低炭素型の共同住宅の誘導 ・太陽光発電設置の誘導 2. 低炭素モビリティの導入 ・レンタサイクルの効果的な活用 ・EV・電動カート導入(シェアリング)、EVステーションの設置 3. 緑化の推進 ・屋上緑化や壁面緑化の推進
1. ブランドづくり・ブランド力の向上(良質な住宅地、良好な教育環境、防犯意識の高い治安の良い町など)(B5・C4・C6) まちの魅力づくり(駅前のにぎわいづくり)(C7) / 企業を誘致し新たなサービスの提供(C6) 各店舗の努力だけでなく他にない魅力で人を集めるまち(演奏の場があるなど)(A12) 2. 商業施設周りで年配の方、子どもたちが集える(A3) / 駐車場が利用しやすいと駅利用者が勝手に利用するのは？(A9) 各商業施設がバラバラでなくつながっていてほしい(A8) / 店同士で回遊できる配置にする(B14) 店の間を行き来できる(A18) / 駐輪場を大きくして欲しい(B13) 事業者の地域貢献(防災に関する取組み等)(A19) / 北部地域の防災拠点になれば良い(B12) 全体 緑地の多い空間づくり(商業施設周辺での緑の整備など)(A5) 事業者による環境負荷の低減(バス回送の本数削減、屋上緑化、騒音に配慮など)(C9) 親子でのんびりと過ごせる町、買い物の途中に子どもたちが遊べる空間など(公園的な空間)(A2・A3・B6) 目的はまちづくり、商業施設以外の計画は？(A10) / 地域の特徴を活かした低炭素なまちづくり(C9)	◎エリアマネジメントによるまちづくりを進めます 地域固有の課題やまちづくりの方向性を地域に関わる関係主体がともに共有し、個別の利益のみを追求するのではなく、地域全体の公益的な価値を創造する、エリアマネジメントによるまちづくりを推進します。 1. エリアブランドの創出 ・地域全体のブランド力を高める共同イベントの開催や共同プロモーションの展開 2. 施設や空間の共同利用 ・にぎわい創出や防災機能としての役割を果たすオープンスペースの創出と活用(外部空地等の有効活用、公開空地のネットワーク化など) ・店舗駐車場の一般利用

まちの将来像・目標(案)	
目標１：誰もが安心して楽しく過ごすことができるまちをつくる 多様な世代の人々のニーズを出来るだけ汲みとり、子どもから高齢者に至る誰もが安心して楽しいひとときを過ごすことができる、利便性の高いコンパクトなまちづくりを進めます。	
まちのイメージ	医療・福祉が整っており、高齢者が歩いて買い物ができるまち 親子で楽しく買い物ができるまち 仕事帰りにちょっと立ち寄る事ができる飲食店があるまち など
目標２：地域特性を活かしたみどりあふれるまちをつくる 北部地域(高山・学研都市)の玄関口として、当地域を取り巻く豊富な地域特性(資源)や周辺地域に残る自然や田畑と連続性のある緑豊かな景観づくりなど、訪れた人や暮らす人がくつろぎ、憩うことができる、みどりあふれるまちづくりを進めます。	
まちのイメージ	敷地内の広場・オープンスペースや街路樹の緑陰で憩い語り合うことができるまち 買い物の合間に子どもたちが遊び、高齢者が憩える公園のような空間があるまち 緑を感じながら暮らしを楽しむことができるまち 伝統と最先端を感じることができるまち など
目標３：環境に配慮した持続可能なまちをつくる 住宅、商業施設への太陽光発電パネルの設置や屋上緑化の促進、地域循環型バスの導入、エネルギーの効率利用に取り組むなど、低炭素社会の実現に向け、環境に配慮した持続可能なまちづくりを進めます。	
まちのイメージ	太陽光発電など省エネルギーを意識したまち 屋上緑化や壁面緑化などを取り入れた建物が多いまち 地域を循環する EV バス等があり公共交通が利用しやすいまち など

本日はここを中心に考えていただきます
(どういう文言を入れれば良いのかは別添資料参照)



〈将来像〉

〇〇・・・なまち

上記のキャッチフレーズを説明する文章が入ります。

まちの目標像や将来像（キャッチフレーズ）の参考例

○川西市中央北地区まちづくり構想

〈めざす都市像〉

「医療」「住宅」「集客」など多機能が連携する『次世代型複合都市』を目指します
せせらぎ空間を活かした持続可能、かつ環境にやさしいまちを実現するため、多機能（「医療施設」「住宅施設」「集客施設」「既存施設」など）が連携し、低炭素に配慮したまちづくりを行っていきます。その手段として、地区全体の付加価値を向上させる必要がありますが、実現に向けては民間活力の導入を積極的に検討してまいります。

○潮江密集地区（尼崎市）まちづくり計画

〈まちづくりの目標〉

安全・安心・快適に住み続けられるまちづくり

密集市街地における当地区では、震災や火災による大きな被害が想定されます。そのため、「防災」は私たちのまちづくりにおいて非常に重要なテーマなのです。

そのため、具体の建築物等に対する規制・誘導を示す「地区計画」とソフトなまちの自治ルールである「暮らしの作法」という2つを両輪として、「安全・安心・快適に住み続けられるまちづくり」の実現を目指して取り組んでいきます。

○西宮市都市計画マスタープラン

〈まちづくりの基本理念〉

宮水の「えん」でつなぎ育む美しいまち西宮

〈考え方〉

私たちは西宮がこれまで培ってきた文教住宅都市としての優れた環境と、品の良さを感じさせる個性的な都市イメージをさらに高め、後世に継承するため、「人（私）と自然」「人（私）とまち」「人（私）と人」のつながりを育み、美しいまちを実現します。

○川西市都市計画マスタープラン

〈めざす都市像〉

であい ふれあい ささえあい 輝きつなぐまち

〈まちづくりの基本理念〉

「つくる」から「活かす」まちづくりへ

「人」「まち」「自然」を活かす川西

現在、私たちは「物質的豊かさよりも心の豊かさ」、そして「拡大・成長から持続的な成長の実現」に重きを置くようになっており、「つくる」から「活かす」まちづくりにシフトしています。

「人」「まち」「自然」は、本市の貴重な「財(たから)」であることから、これらを川西の資源と考え、私たちにとって最も効果的な方法でうまく「活かす」ことにより、子どもから高齢者まで、様々なライフスタイルの人々が、快適に生き生きと暮らすことができるまちづくりを、市民の皆さんとともにめざします。

○生駒市総合計画

〈将来都市像〉

市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒

〈考え方〉

まちづくりの主役は市民です。本市には様々な能力や経験をもった市民がたくさんおられます。市民自治の原点に立ち返って、市民の力や地域の活動をまちづくりの推進力とし、人と人がつながることによって、安全・安心、教育や環境など様々な場面で「めくもりあふれるまち」を築いていくことを目指します。また同時に、大都市近郊にあり、学研都市に位置づけられているという本市の立地を活かしながら、市内の経済活動の活性化を図り、さらにワークライフバランスの観点にも配慮しつつ、若者や子育て・勤労世代にとって魅力のある「活力あふれるまち」を築いていくことを目指します。そして、可能な限り将来世代に負担を積み残さず、無駄を省き、資源を大切に持続可能なまちづくりを進めていきます。

○生駒市景観形成基本計画

〈景観づくりの理念〉

わたしたちは、生駒らしい景観が、本市にかかわるすべての人の共有のものであることを認識するとともに、異なる立場の人が、それぞれに地域社会の構成員であることを認識し、相互に協働しながら、守り、つくり、育て、時には改めて、次代を担う世代に残していかなければなりません。

そのため、次のように理念を定め、良好な景観の形成を進めていきます。

○生駒らしい景観の特性を読み解き、地勢、地域の特性に応じた景観形成を図ります。

○豊かな緑に彩られた住宅都市である生駒の景観を尊重した景観形成を図ります。

○歴史や文化に今一度目をむけ、生駒を再発見できる景観形成を図ります。

○生駒にかかわるすべての人が快適な生活を享受でき、将来の世代に引き継げる景観形成を図ります。